

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年2月3日～2018年2月9日の推移】

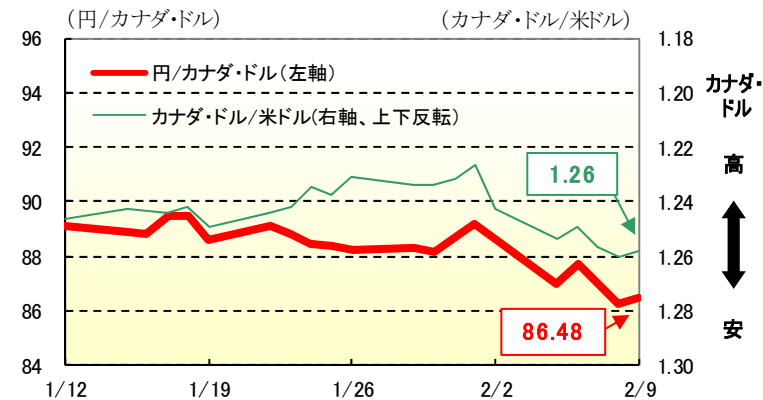
### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落し、カナダ5年国債利回りは低下しました。

先週は、株価や原油価格などが下落し市場のリスク回避的な姿勢が強まったことを背景に、カナダの金利は低下しカナダ・ドル円は下落しました。

またカナダでは雇用統計が発表され、雇用者数が18カ月ぶりに減少するなど市場予想を下回る結果となりました。ただし内容を詳しく見てみると、パートタイム雇用者数が大幅に減少しており、これはオンタリオ州の最低賃金引き上げの影響もあるようです。カナダの労働市場については、今回の雇用統計の結果だけで軟化したと判断するのは早計であり、来月以降の結果も踏まえて判断するべきだと考えます。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年1月12日～2018年2月9日)



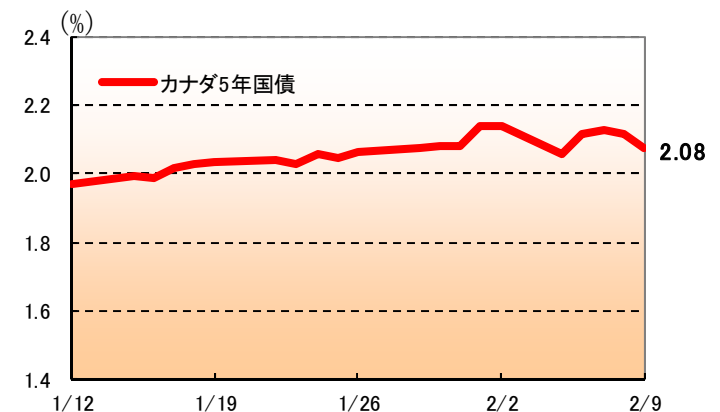
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは特段重要な経済指標の発表はありません。

一方、米国ではCPI(消費者物価指数)が発表されます。米国については、足元で賃金の伸び率の高まりやFRB(米国連邦準備制度理事会)高官の発言により、利上げペースが加速するとの懸念が急速に高まったことを背景に、金利が上昇しており、CPIが市場予想を上回る結果となれば、この懸念がさらに高まると考えられます。そのため、その場合には米国金利の動きに連れやすいカナダの金利も上昇圧力が高まりやすいほか、カナダ・ドル円の上昇圧力にもなると考えられます。ただし、最近の市場では金利の急上昇に対しては、株価が下落するなど市場のリスク回避的な姿勢が強まりやすく、金利や為替の上昇の歯止めになると考えられます。

【カナダ 金利推移】 (2018年1月12日～2018年2月9日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>